柴田 有子
Shibata Yuko

真庭人
MANIWABITO

長年、購買・学生寮に勤めて

柴田有子さんは、3月末で閉校地を迎える、真庭高校久世校地の購買に勤めています。柴田さんが購買で働き始めたのは1988年のこと。「私もここの卒業生なんです。それで、恩師の先生が声を掛けてくださって、購買で働き始めました」ときっかけを話します。その後、久世校地の学生寮『やまなみ寮』の寮母もすることに。柴田さんは生徒の様子をよく見ていて、教員からの信頼も厚かったそうで、「寮で毎日会ってるから、『今日はどっか行くん』とか、『最近休みがちなんじゃないん』とか、声を掛けてましたね」と話します。

印象に残っていること

長年の勤務で印象に残っていることは、生徒や先生との交流と話す柴田さん。「大勢の生徒と出会いましたから、やっぱりいろんな生徒がいました」としみじみ。親子で久世高校、久世校地の生徒という人もいたそうで、「お母さん、お父さんが生徒の時はどうだったとか話しましたね」と楽しそうに振り返ります。

卒業生のよりどころ

柴田さんがいる購買には、卒業生もよく訪ねて来るそうです。「『結婚したよ』、『子どもが生まれたよ』、『転職したよ』とか言いに来てくれて。先生に会いに行くより先に購買に来る子もいますね」と笑います。

閉校地となることはやっぱり寂しいと話す柴田さん。「跡地がどういう使い方になるのか、決まるのはこれからですけど、人が集まれて、卒業生も来れるような場所になればいいですね」と久世校地の跡地の未来に期待を寄せます。

真庭高校久世校地の購買がある
創立五十周年記念館

久世校地の
寮母もしています

柴田 有子さん（上河内）

久世高校農業科卒。県内最初の農業科女子生徒の一人。衣料品店に数年勤めた後、1988年（昭和63年）から久世高校（現真庭高校久世校地）の購買に勤務。学生寮で寮母も務める。勤務日以外は畑仕事や孫のお守りに汗を流している。